

読売

# 教育ネットワーク

## 社会はまるごと学校—— すべての大人が先生です



読売教育ネットワークの創設記念イベントで行われた、超伝導の公開出前授業。子供たちは液体窒素を使った実験を楽しんだ（10月11日）

読売  
教育ネットワーク

創設記念イベント

**出前授業に目輝く**

2・3

学校発

県立浦和高校 × 天皇陛下の執刀医  
武蔵村山市立小学校9校 × 東大大学院

5

6

企業発

日本取引所グループが中高生向け起業塾

4

顧問会議

ネットワークのあり方論議

8・9

読売中高生新聞

創刊記念イベント 12月26日に開催

10・11

参加団体一覧

小中高校117 大学32 市教委3 団体25 企業52

6・7

お知らせ広場

オペラ・バレエ招待／ビブリオバトル参加募集など

7

2014.11  
Vol. 1



# 出前授業に目輝く

読売新聞社は10月11日、創刊140周年記念の教育貢献事業として「読売教育ネットワーク」を創設し、記念イベント「学び発見フォーラム」を東京都千代田区のみやうり大手町ホールで開催した。小中高校生ら約300人が超伝導の出前授業などを楽しんだ。ネットワークは、出前授業や職場体験、各種イベントを通じ、全国の学校と企業、大学の交流を図り、先駆的な取り組みを発信する。10月31日現在、小中高校117校、32大学、公的団体25、3市教委、企業52社、個人6900人が参加している。



創設記念イベントの公開出前授業ハイライトは、リニアモーターカーの模型の走行実験。逆さまにしても落下しないで走る模型に、生徒たちもビックリ

フォーラムでは、老川祥一読売新聞グループ本社取締役最高顧問・主筆代理がネットワーク創設を宣言した後、来賓の下村文部科学相が「教育によって、世界で一番可能性が広がる国にしたい」と述べた。ネットワーク顧問で日本私立大学団体連合会の清家篤会長も「教科書では学べない本物と触れ合う機会にしてほしい」と期待を込めた。

第1部では元プロ陸上選手の為末さん、ネットワーク顧問で作家のあさのあつこさんが夢をテーマに講演した。第2部は、公開出前授業「超伝導ってなんだろう」。為末さん、強東大学准教授が、舞台上上がった児童生徒12人と実験しながら、リニアモーターカーに通じる科学技術を解説した。「今、空中で浮いているのが超伝導体です」。准教授が手にした磁石の上に小さい塊がフワリと浮き、逆さまにしても落下しない。「今日はこの原理を勉強しましょう」と話し、授業が始まった。

超伝導とは、ある物質を極低温に冷やすと、電気抵抗が突然ゼロになる現象だ。准教授がマインス196度の液体窒素で酸素を冷却すると、気体だった酸素が淡い青の液体に変化。生徒たちと一緒に花とバナナを凍らせる実験を行い、「極低温では物質の状態が変わることがわかりましたね」

では、超伝導となった物質には、どのような特性があるのか。①熱を出さずに大量の電気を流せる②超伝導体は磁力をはじき、磁場の中で浮く――の2点を丁寧に説明した。

ハイライトは、リニアモーターカーの模型の製作・走行実験だ。

生徒たちは発泡スチロールで小さな箱を作り、底に銀色のテープを張っていく。何の変哲もない外見だが、テープの正体は金属基板上に厚さ1・5ミリの高温超伝導体を重ねたハイテク素材だ。強力な磁石を敷き詰めたレールの上に箱を置くと準備完了。箱の中に液体窒素を慎重に注ぐと、「あ、箱が浮いたよ」。そっと手で押された箱は浮かびながら進みだし、会場から拍手が起きた。

「科学の力ってすごい」。准教授の授業は子どもたちに大きな感動を与えて終わった。

## 市川高校（千葉県）1年の山下流輝君

「為末さんは、夢をかなえるために応援してくれる人の大切さを教えてくれた。将来は、得意な英語をいかして、為末さんのように世界で活躍したい」

## 東京都武蔵村山市立第三中1年の佐藤真凜さん

「リニアモーターカーが超伝導で浮いているということを知らず、実験を見てびっくりした。理科はあまり得意ではないけれど、少し科学に興味があった」

## 東京都江東区立東雲小5年の広田直希君

「あさのさんが岡山県の山や川で遊んでいたと聞いて、自分の生まれた福島を懐かしく思った。『あきらめなければ』と書いていたので、これからは作文などをがんばりたい」

## 横浜市立小菅ヶ谷小4年の渡辺真衣さん

「絵を描くのが好きなので将来はデザイナーになりたい。あさのさんの『本が好きだ』という話が印象に残った。夢をあきらめない気持ちを大切にしたい」

## 参加者の声

### 日本航空総務本部広報担当部長の阿部泰典さん

「羽田空港整備地区にはJALスカイミュージアムなどの施設がある。客室乗務員によるキャリア教育も行っており、子どもたちに夢を持ってもらえればと思う」

### 新日鉄住金エンジニアリング戦略企画センターの名村敦子さん

「子どもたちは『夢はかなう』と言われて育っているが、挫折したらどうするのか。その意味で、為末さんの『夢の奥にあるものが大切』という話は良かった」

### 長崎大学原爆後障害医療研究所の宮崎泰司副所長

「多様な知を大事にするのが教育だが、ネットワークが目指す『本物との出会い』はとても大切だ。『どのような夢を軸に生きていくのか』という講演も訴える力があつた」

### 灘中学・高校（兵庫県）の和田孫博校長

「本校でもOBを招いた土曜講座を行っている。関心のある事象を深く掘り下げ、進路を考えるうえで大きな効果がある。こうした試みの全国展開は有意義だ。教育の課題を本音で話せる勉強会にも期待したい」

### 慶応義塾普通部（神奈川県）の山崎一郎部長

「スポーツ選手と小説家の講演、最先端の超伝導実験はバランスの良い内容だった。こうした講師陣を各校でお願いするのは難しいのでネットワークで提供してもらえたらうれしい」

### 東京都杉並区立和田中学校の末吉雄二校長

「生きてきた過程の具体例は子どもたちに響く。我が校でも様々な職業の人をお呼びして授業をしているが、エキスパートでなくても本物の人との出会いから得られるものは大きい」

## 元プロ陸上選手 為末 大さん



1978年広島県生まれ。2001年エドモントン世界選手権及び05年ヘルシンキ世界選手権の男子400mハードルで銅メダル。シドニー、アテネ、北京と3度の五輪に出場。

### 夢の原点を大切に

小学生の時、ロサンゼルス五輪陸上四冠のカール・ルイス選手（米国）を見て、世界で活躍したらスターになれるんだとすごく興奮した。陸上競技をやって世界で活躍することは、人を熱狂させる力があるんだと思った。

どんな夢にも原点みたいなもの

がある。長くやっている、何でもやっているのか分からなくなる。でも、振り返るたびに、世界一の選手になって世界にインパクトを与えたいというのが原点だと気づく。ぼくは2年前、陸上競技を引退した。しかし、人をびっくりにさせるようなことをして、だれかの意識・行動が変われば良いという、夢の奥にある思いは変わらない。

可能性があることは素晴らしいことで、みんなの人生はこれからもっともっと先がある。自分の夢で、誰かのためにこれをやりたいんだということを見つけてほしいと思う。

## 作家 あさの あつこさん



1954年岡山県生まれ。小学校の講師などを経て作家デビュー。10年がかりで完結した『バッテリー』が野間児童文芸賞などを受賞。「ランナー」「グラウンドの空」など。

### 1冊の本 ドア開く

岡山県の小さな田舎町で育ち、山や川など遊び場に事欠かなかった。近所に図書館もなかったため、小学生まではほとんど本を読まなかった。

中学1年の時、英国の作家コナン・ドイルのシャーロック・ホームズシリーズの一つに出会い、も

のすごく面白くて。行ったことのないのに、霧のロンドンの風景が頭に浮かんだほど。

スポーツはできないし、音痴だし、勉強もできないほうじゃない。小さい頃からコンプレックスがあったが、この本を読んだ瞬間、なぜか「読む人ではなく、書く人になりたい」と思った。周りに壁があるような閉塞感があったが、1冊の本が、壁にはドアがあると気づかせてくれた。

人が実際に経験できることは多くない。しかし、本は人の心を飛躍させ、魂をはばたかせてくれる。たくさん読んで、世界を広げてほしい。（読売教育ネットワーク顧問）



### 埼玉県立浦和高校 × 天皇陛下の執刀医



医師体験プロジェクトに参加した県立浦和高校の生徒3人(上)  
「医師を目指すなら早い段階から現場を見せたい」と話す天野篤教授(左下)  
順天堂大病院5階の手術室(右下)



# 命救う最前線を体感

キャリア教育の一環として今年夏、埼玉県立浦和高校の3年生3人が、天皇陛下の執刀医として知られる天野篤・順天堂大学医学部教授の行う心臓手術に立ち会った。命を救う最前線を体感することで、医師を目指す志を固めるのが狙いだ。

8月上旬、東京都文京区の順天堂大病院5階の手術室では、早朝から外科医、麻酔科医、臨床工学技士、看護師が手術の準備に追われていた。既に手術台には全身麻酔で眠る患者がいる。そこへ、天野教授が入ってきた。「はい、メス」。教授の一声とともに、大動脈弁置換と冠動脈バイパスを同時に行う難手術が始まった。

この手術台からわずかな距離、かたずけの山口颯矢君だ。「開胸とリアルな心臓にはインパクトを受けました。でも、圧倒されたのは『医

生』という、心臓外科医としての私の賞味期限が切れないように本物を体感してもらいたい。世界最高レベルの手術によって患者さんがどう回復するかを知ってほしい」

この思いに呼応したのが杉山校長だ。医学部を目指す生徒には、どのような医師になり、ど

「医学部志望の生徒に手術を見せる考えは、20年前からあった」と教授は話す。「ライセンスさえ取れば何とかなるという考えでは、医師は務まらない」といった医師養成教育への問題意識もあり、早い段階から現場を見せたいと考えていた。

### 医学部希望の3人 天野教授の手術見学

同校OBの天野教授が杉山剛士校長に「医師体験プロジェクト」を打診したのは2013年11月下旬、同校PTA向け講演後のことだ。「医学部志望の生徒に手術を見せる考えは、20年前からあった」と教授は話す。「ライセンスさえ取れば何とかなるという考えでは、医師は務まらない」といった医師養成教育への問題意識もあり、早い段階から現場を見せたいと考え

う世界に貢献するかというビジョンが欠かせない。本格的な体験は必ず役に立つはず」。校長の考えと教授の計画が一致した。準備は慎重に進められた。学校側は参加生徒の選抜、保護者への説明に着手。個人情報保護を明記した誓約書、同意書、生徒たちの健康状況自己申告書を病院に提出した。天野教授も患者側への説明に細心の注意を払い、万全の態勢が整った。

### 世のために貢献したい 夢が志になった

3人は、それぞれ3日間、様々な手術に立ち会った。執刀医を支える医療チームの存在を知り、若手が厳しく指導される緊迫した空気にも触れた。地域医療に関心のあった榎並奏君は「より深く、より身近に医師をとらえることができた。長時間に及ぶ手術を行う体力が必要なのも分かった」と話す。門馬拓未君も「命を預かる重みと責任。なまはんかな覚悟では、この場には立てない」と手術立ち会いを振り返る。

受け止め方は三者三様だが、思いは同じだ。「いつか、医療という舞台に立つ。人のために尽くしたい」。夢は、かつて天野教授も初心として抱いた強い志に変わろうとしている。

### 日本取引所グループ 体験プログラム



10月上旬の会合で、投資家役の日本取引所グループ社員たちにプレゼンする生徒たち

# 中高生 起業に挑戦

東京証券取引所などを傘下を持つ日本取引所グループ(JPX)は今年秋、中高生が模擬会社を設立し、実際にイベントで出店する「起業体験プログラム」を開始した。参加者は、1人1000円の自己資金を出すほか、同社から実際に出資を受けて起業する。実際にイベントの模擬店で販売して利益が出れば、配当が受けられる仕組みだ。

### 投資家からダメ出し 事業計画を修正

「おでんは、売れる品と売れ残る品にばらつきが出るのでは」「残ったものは値段を下げたり、セットで売ったりして柔軟に対

応したいと思います」おでん屋の事業計画を発表したチームの「社長」が、同社員ふんする「投資家」によるダメ出しにこう反論した。社長は、なんと中学1年生だ。ダメ出しの後、各チームに投資額が提示された。事業費を約32万円としていたおでんチームへの投資額は、14万円。メンバー18人の自己資金を加えても計14万8000円と、予定の半分以下に。大幅な計画修正が必要となった。

修正のために与えられた時間は2時間。「昆布巻きは子ども受けしないかも」「おでん鍋って、2つ必要かな」チームは早速、経費の絞り込みに取りかかった。最終的に、おでんだねを14種類から8種類に減らすなどして、見事与えられた金額まで絞り込んだ。社長役を務めた慶応義塾普通部1年の富田帝(みかど)君(13)は「事業に必要な物を見極める判断と資金繰りの難しさがわかった。意見をすり合わせ、協力して一つのものを作り上げる経験は、将来社会に出てきつと役立つ」と話した。他の3チームの企画は、プチケーキ、スープといった現実的なラインアップのほか、キムチ



プレゼンを前に最後の打ち合わせをする

各チームは会社の定款を作成し、模擬的に会社を登記。11月上旬に都内の展示会に出店する。同社の社会貢献事業を担当するCSR推進室の中村寛室長は「失敗したり、予測しなかったことが起きても、解決法を自分たちで考え、実践する力を養えたのではないかと話している。同社は来年度以降、出前授業や教材提供の形で、同プログラムを全国の学校で無料展開する予定だ。





このコーナーでは、読売教育ネットワークに参加する全国の小中高校、大学、企業・団体からのお知らせを紹介し、掲載申し込みは、随時受け付けています。

### オペラ、バレエに招待

ニッセイ文化振興財団（東京）は来年6月から11月にかけて、東京・日比谷の日生劇場で上演するバレエとオペラに中高生計約1万5000人を無料招待する。

財団が今年開始した子ども向けの無料招待公演「ニッセイ名作シリーズ」（協賛・日本生命）のうち、中高生対象の「ニッセイ名作鑑賞教室」。上演されるのは、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」（2015年6月15日～19日）、バレエ「コッペリア」（同年7月13日～17日）、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」（同年11月11日～13日）。バレエ5公演を含む計13公演で、定員は1公演1200人。



オペラ「ヘンゼルとグレーテル」撮影：三枝近志

申し込みは学校ごと。11月28日までに同劇場に電話（03・3503・3122）で申し込む。

### 札幌聖心でバカロレア報告会

文部科学省「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」の指定校となっている札幌聖心女子学院高校は12月4日、札幌市中央区の同校で、2012年の指定から今年度までの3年間の取り組みを報告する。環境科学、倫理、英語の3教科で4つの公開授業を実施するほか、大迫弘和広島女学院国際バカロレア調査研究室長が「国際バカロレアと日本の教育の未来」と題して講演する。午前9時～午後3時40分。問い合わせは、札幌聖心女子学院高校（011・611・9231）。

### ビブリオバトル参加者募集

高校生がお薦めの本の魅力を発表しあい、どの本を最も読みたくなったかを投票で決める全国高等学校ビブリオバトル2014の地区大会が各地で開催されている。既に6地区の大会が終了し、残る3大会は11月16日の関西大会（大阪・追手門学院大阪城スクエア）、同23日の関東・甲信越大会（東京・よみうり大手町ホール）、同30日の九州・山口大会（福岡・西南学院大学）。上位入賞者は来年1月に東京で開催される全国

大会に出場する。関西、九州・山口大会は出場校を募集中。一般も観戦できる。問い合わせは活字文化推進会議事務局（03・3217・4302、平日午前10時～午後5時）。



9月28日に椋山女学園大学で行われた東海大会

### 立方体地球の出前講義

もしも地球が立方体だったら何が起きるのだろうか——。日本科学協会が、地球を立方体にする事で見えてくる地球の仕組みを考える「出前講義」の申し込みを受け付けている。一辺が1万km、丸のサイコロの形をした立方体の仮定の地球をコンピューター・グラフィックで作り出して、どんなことが起きるのかを考えることによって、地球の仕組みを学んでいこうという試みだ。

出前講義は、小学5年以上が対象で、講座開催日の2か月前までに公益財団法人「日本科学協会」あてに所定の「立方体地球」出前講義申込書に必要事項を書き込み、ファクス（03・6229・5369）かEメールでcubic-earth@jss.or.jpあてに送付すること。なお、問い合わせは日本科学協会（03・6229・5365）へ。

## 武蔵村山市立小学校9校 × 東大大学院



楽しそうに稲刈りに挑戦する児童ら

# 科学的農法 食の大切さ学ぶ

東京都武蔵村山市内の高い丘の谷あいにある約1160平方メートルの水田。9月下旬、同市立第七小の5年生約120人が稲刈りに挑戦し、泥だらけになって歓声を上げていた。同市では1979年、田植えや稲刈りを体験する「水田学習」を市立小学校4校で開始。現在は市内9校全てで実施している。水稲栽培の実習を通して、稲の生育について学びながら、土に親しみ、農家の苦勞を知ることを目的だ。

水田は計9枚。そのうちの1つに昨年度、東大大学院農学生命科学研究科の溝口勝教授の指導のもと、稲集約栽培法（SRI）という農法を導入した。水田の水を断続的に一定期間抜き、稲を過酷な状況にさらすことで、根が強く育ち、茎の枝分かれが促進される。3本一組で植える一般的な

な農法よりも、1本だけで植えたSRIの稲のほうが収穫量が多くなるとされる。伝統的な水稲栽培に加え、現代の効率的な手法を学ばせようという試みだ。カマを手にならば稲を刈っていた松本朝飛（あさひ）君は「SRIだと、少しの苗でたくさんのお米が取れると知ってすごいと思った。お米のでき方に興味があった」とうれしそうに話した。

さらに、SRIを導入した水田の脇には、カメラ、温度計、雨量計などが取り付けられた。画像やデータは毎日更新され、学校のパソコンで確認できる。「画像に写った稲の生育状況と温度変化を比べたり、雨量や風速に大きな変化があれば、その原因を調べたりと様々な学習に活用できる」と溝口教授。「食べ物

## 参加団体一覧

（平成26年10月31日現在）

【企業】 旭化成、イオン、英会話イオン、江崎グリコ、SMBC日興証券、NEC、大阪ガス、岡村製作所、学研グループ、関西電力、キュービー、近畿日本ツーリスト、クラレ、KDDI、サッポロホールディングス、JX日鉱日石エネルギー、JTB、新日鉄住金エンジニアリング、住友生命保険、積水ハウス、セブン&アイ・ホールディングス、ソニー、ソニー生命保険、損害保険ジャパン日本興亜、第一生命保険、大丸松坂屋百貨店、大和証券グループ本社、高島屋、ダスキン、ツムラ、東京海上日動火災保険、東レ、トヨタ自動車、日本航空、日本生命保険、日本テレビ放送網、日本取引所グループ、日本マクドナルド、野村ホー

ルディングス、パナソニック、富士通、丸紅、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三井物産、三菱重工業、三菱商事、三菱東京UFJ銀行、ライオン、リコージャパン、リソナホールディングス、ローソン

【大学】 北海道教育（北海道）、青森（青森）、東北（宮城）、白鷗（栃木）、神田外語、麗沢、和洋女子（千葉）、亜細亜、桜美林、大妻女子、杏林、慶応義塾、聖路加国際、創価、多摩、中央、帝京、東京芸術、東洋、文教、法政、明治（東京）、昭和音楽（神奈川）、椋山女学園、名古屋市立（愛知）、立命館（京都）、大阪、大阪行岡医療、関西、近畿（大阪）、西南学院（福岡）、立命館アジア太平洋（大分）

【大学機関・団体】 国際教養大学図書館（秋田）、企業

教育研究会、千葉大学教育学部授業実践開発研究室、モロロジー研究所（千葉）、エディック、おとあーと研究室、海外子女教育振興財団、学術・文化・産業ネットワーク多摩、経済教育ネットワーク、公園財団、五島育英会（東京都立大学グループ）、情報処理推進機構、製品評価技術基盤機構、ディレクトフォース、ニッセイ文化振興財団、日本科学協会、日本科学未来館、日本プラスチック食品容器工業会、森上教育研究所（東京）、東芝未来科学館（神奈川）、びわ湖ホール（滋賀）、京都大学学術出版会、大学コンソーシアム京都（京都）、長崎大学熱帯医学研究所、長崎大学原爆後障害医療研究所（長崎）

【教育委員会】 東大和市、福生市、武蔵村山市（東京）

【私立小学校】 青山学院初等部、星美学園、立教（東京）、

立命館（京都）、関西創価（大阪）、西南学院（福岡）

【私立中学・高校】 札幌聖心女子学院、東海大学付属第四高、北嶺、立命館慶祥（北海道）、青森山田（青森）、浦和実業学園中、開智中・高、立教新座（埼玉）、市川、渋谷教育学園幕張、昭和学院、昭和学院秀英、聖徳大学付属女子、専修大学松戸、千葉明德、日出学園、麗沢（千葉）、青山学院中等部、陽明女子、かえつ有明、学習院女子、共立女子、京華、佼成学園、佼成学園女子、国学院大学久我山、桜丘、実践学園、芝、渋谷教育学園渋谷、女子聖学院、城西大学付属城西、白梅学園清修中高一貫部、成城、星美学園、青稜、灘野川女子学園、多摩大学付属聖ヶ丘、帝京大学中・高、貞静学園、田園調布学園、東海大学菅生高等学校中等部、東京家政大学付属女子、東京女子学園、桐朋女子、日本大学第三、

日本学園、富士見丘、文華女子、宝仙学園共学部理数インター、明星、明法、八雲学園、安田学園、立正大学付属立正（東京）、慶応義塾高、慶応義塾普通部、相模女子大学中高、湘南白百合学園、聖光学院、聖セシリア女子、法政大学女子高、法政大学第二（神奈川）、片山学園（富山）、海陽中等教育学校、南山女子部（愛知）、立命館守山（滋賀）、立命館宇治（京都）、関西創価、関西学院千里国際、浪速、羽衣学園（大阪）、神戸学院大学付属高、灘（兵庫）、西南学院、筑紫学園（福岡）

【公立小学校】 武蔵村山市立第一・第二・第三・第七・第八・第九・第十・雷塚（東京）、横浜市立白幡（神奈川）

【国立中学・高校】 札幌開成高（北海道）、県立津高（福島）、県立那珂湊高（茨城）、県立浦和高、県立浦和第一女子高、県立春日部高（埼玉）、県立千葉中・高、県立船橋高（千葉）、お茶の水女子大学付属中、杉並区立和田中、東京学芸大学付属国際中等教育学校、都立桜修館中等教育学校、三鷹市立第四中、武蔵村山市立第一中・第三中・第四中・第五中、都立日比谷高（東京）、鎌倉市立大船中、県立湘南高（神奈川）、京都市立花山中（京都）、府立布施高（大阪）、県立畷傍高（奈良）

【個人】 増田寛也・東京大学客員教授、為ヶ井強・同大准教授、柳沢幸雄・同大名誉教授・開成中学校長、長沢伸也・早稲田大学教授など全国の大学、小中高校の教員、学校司書6900人



# 家庭、地域、企業 学び応援 多角的に

「読売教育ネットワーク」は、創設に先だつ8月22日、顧問4人（あさのあつこ顧問は欠席）に老川祥一読売新聞グループ本社取締役最高顧問・主筆代理を交えて、顧問会議を開催した。学校が抱える問題、ゆとり教育はなぜうまくいかなかったのか、教育における企業や地域の役割など、多角的な視点からネットワークの学びの支援のあり方を話し合った。

**老川** 今年読売新聞創刊140周年という節目の年で、教育を通じて貢献を大きなテーマにしたいと思っている。教育は学校、教育機関だけでなく、社会全体で考えていかなければならない。読売教育ネットワークでは、企業と大学、企業と小中高校、あるいは大学と小中高、色々な連携の土俵作りをやらせていただくよう考えた。

最近、失恋した相手を追いかけて殺人まで犯すストーカーが

問題になった。小説を読んでいれば、失恋は人生につきものである。リセットもできるはずだが、最近はそのような小説すら読む習慣がないのではないか。文字に親しみ、自分で考えることが必要だと思ふ。

これからネットワークをどう運営していくか、どの様な役割を担うべきか、顧問の皆様には様々な助言をいただきたい。

**清家** 変化の激しい時代だからこそ、落ち着いてモノを見て、じっくり考えることが大切だ。読書に親しみ、新聞を読み、世の中を冷静に見る。そういうことを、大人だけでなく子どもも身に付ける必要があると思う。

**吉田** 現代の子どもや若者は、昨今指摘されるほど悪いだろうか。20代だって素晴らしい人がたくさんいる。彼らの良さがクローズアップされず、悪いことが起きると、そればかりが広がってしまっている。それから、もう一回家庭というものを考え

直してほしい。いじめ問題も責任を考えると、「学校の先生だ」となる。教員の地位、立場がどんどん劣化していき、騒がれたら何にもやらなくなってしまう。やはり家庭が原点だ。

**新浪** この20年を振り返って企業の人材育成の役割を疑問に思っている。どちらかというとコストカットが中心で、元気がなくなってきた。日本の成長には、人が前向きになり、子どもたちが元氣な後ろ姿を見せて行くことが大事だ。また、日本の社会のベースはみんなで助け合っていていくところだと思っている。こ

の良さをもう一度確認しなければならぬ。それが教育につながっていく。

**体験を通して主体的に考える授業を**

**乙武** 「ゆとり教育」は失敗だったと総括されているが、目指したところは間違っていない。知識偏重に戻るのには反対だ。なぜ失敗に終わったのかという点、皮肉なことに教員にゆとりがなかったからだと思う。「ゆとり」を実現させる鍵は、「総合的な学習の時間」という教科の中でしっかりと子どもたちが体験しながら自ら主体的に考える授業をしていくことだった。その役割を外担に増やすことにより、現場の負担を増やすことなど知識偏重ではない授業を提供できるのではないかと考える。

**吉田** 私も「ゆとり」は間違っただけではないと思う一人だ。ゆとりとは、バネであり、ゆと

**出席者**

**読売教育ネットワーク顧問**

日本私立大学団体連合会長  
慶応義塾長  
**清家 篤氏**

サントリーホールディングス社長  
**新浪 剛史氏**

日本私立中学高等学校連合会長  
富士見丘中学校校長  
**吉田 晋氏**

東京都教育委員  
**乙武 洋匡氏**

読売新聞グループ本社  
取締役最高顧問・主筆代理  
**老川 祥一**



8月22日に行われた顧問会議（左下）に参加した（右上から）清家氏、新浪氏、吉田氏、乙武氏、老川氏。

キャリアを成功させる上で大切なことが分かった。ネットワークを通じて、子どもたちに利他的なスキルの大切さを伝えられる仕組みがあればいいなと思う。

## グローバル化社会 日本の歴史と文化教えたい

**新浪** 倫理をしっかりと見据えて、社会とビジネスは向き合って共存していくべきだ、という考え方を普及させていかなければならない。日本のビジネス、産業には元々「三方良し」という観点があつた。しかし、グローバル化の中で、どうも金融資本主義が世界を席巻してしまった。子どもの頃から、「人に迷惑をかけるな」「人に喜んでもらう」という教育のテーマがなければいけないのではないか。

経済が非常に厳しかった20年間に、貧困率が上がってしまった。そういう中で、一定の経済的基盤がないと子どもを産まない、子どもがいてもきちんとして教育を与えられないという問題が出てきた。現実的には、家庭だけで全てをやりなさいといっても無理がある。むしろコミュニティでどうやって子どもを育てていくか。また、グローバル化の中で、日本人としてのアイデンティティが欠けてきている。地域の歴史や文化につ

いてもコミュニティで教えることが重要なのではないか。

## コミュニティで育む 重要な課題

**乙武** 今の話には大賛成。最近、新宿区内の掃除をするボランティア団体を立ち上げた。都心では隣に誰が住んでいるか分からない。災害に襲われた時のことを考えると、普段から色々な世代の人がコミュニティとして顔を合わせられる場が必要だ。その切り口がゴミ拾い。子どもたちにも参加してもらい、地域の高齢の方と交流する機会を作っている。「ネットワーク」も、家庭と地域を巻き込むような取り組みになるといい。

**吉田** 私が校長を務める学校の近くに商店街があるが、かつては、互いの関係が薄かった。でも、10年ほど前から生徒会と商店街がコラボを始めた。年に2回くらい商店街でゴミ拾いをして、2時間で集めた量を競争する。今は一週間に一回はゴミを回収しており、お店の人たちと子どもたちとの間に信頼関係が築けている。無謀な自転車が生徒にぶつかりそうになると、お店の人たちが乗り手をしかつてくれる。地域との関係はとても大切で、そういった点では、学校と企業との協力も、互いに

りがあるから跳ねることができない。公立校は、ゆとり教育のために土曜を休みにして授業を削減してしまつた。

職場体験をやる時、子どもはがらりと変わる。夢で描いていたことも、実態を見て話を聞くことで子供は変わっていく。そういうきっかけをネットワークで与えていけばいいのではないかと考える。

## 利他的スキルの大切さ ネットワークで伝えたい

**清家** 2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェイムズ・ヘックマンが、多くの人を長年にわたって追跡して、どういう要因が職業キャリアにプラスに作用するかを分析している。研究で分かったことは、キャリアに寄与する能力、スキルは大きく二つあるということ。一つはコグニティブ（認知的）なスキル。「勉強ができる」とか「自分で考えることができる」といった能力。もう一つはノンコグニティブなスキル。例えば「約束したことは必ずやり遂げる」「うそをつかない」「困っている人を助ける」……。

職業キャリア上で成功している人は、職場で困っている同僚を助けたり、ビジネスで取引相手の立場で考えたりした経験が必ずある。利他的な対応が職業

## 自然との触れ合いは大切 教室の外へ連れ出そう

自然とのかかわりも大切だと思ふ。中学生か高校生と話した時、「新浪社長はゴルフやりますか」「じゃあやりましたよ」となったことがある。ところが、これはゴルフゲームの話だった。外に出て行く、自然と交わるということが大切なのではないか。自然と触れ合う中で科学に興味を持つ人も出てくる。

**乙武** 外部の授業を学校に持ち込むのもいいが、自然体験が子どもたちに欠けているのではないかと考える。子どもたちを外に連れ出すというのにも必要だ。

**提言**

ネットワーク顧問からの

清家氏 子供も新聞読む習慣必要

新浪氏 大人の元氣な姿を見せよう

吉田氏 職場体験で生徒は変わる

乙武氏 知識偏重ではない授業提供





ハーバード大学の学友に囲まれる楠さん(中央)



新住居、新しいルームメイト、新しい社交クラブとの出会いがあり、興奮と不安

が、増していく。新学期は「ジョッピング・ウィーク」で始まる。学生は関心を持った講義を色々と「ジョッピング」し、受講する講座を決める。もちろん、顔を出したからといって受講の義務はない。これがハーバードの一般教養教育の特色であり、学生たちは、視野を広げることができる。というわけで、マイケル・サンデル教授の「正義」のような最も有名な講義でさえ、注目を集めるためには規模の小さい講義とも競い合わなければならないのだ。入学して1年。ここで、ユニ

ークで意外性のある学生たちとの出会いがあった。その一人、「社会階級」の講義の中で知り合った同級生は、政府の援助を得てきた貧困家庭出身だった。韓国人と中国人との間で生まれたが、父親は家族を捨てて去り、母親は病気で働くことが出来ないう、といった環境の中で育ち、学び続けることに多くの困難があった。しかし、そんな苦境をものともせず、ハーバードでの4年間の奨学金を獲得した。今、僕は思う。ハーバードは学生に情熱と献身を求めてやまず、それを地位や特権以上に重視しているのだと。心から好きなことを、世界で最も競争の激しい場所で追究したいのなら、ハーバードはまさにそれにふさわしい場所なのだ。(会報編集

部抄訳 The Japan News 9月11日) 英語の原文は、<http://the-japan-news.com/news/article/0001520760>と11月11日にお読みいただけます。

9月のハーバードは、新学年の息吹が感じられる季節だ。キ

## 海外で学ぶ・リレーエッセー ① 求められる情熱と献身

ハーバード大学2年

楠正宏さん



日本の高校から海外の大学に学びの場を求めた現役留学生が、同じ道を目指す高校生に対し、進学支援を行っているのがNPO法人「留学フェロシップ」。そのメンバーに、海外でのキャンパスライフや日々感じていることを書いてもらいます

11月11日、神戸市の灘高校からハーバード大に進んだ留学フェロシップ代表の楠正宏さん。留学フェロシップの活動の詳細はウェブサイト (<http://ryu-fellow.org>) へ。



マレーシアのペトロナスタワーを前に集合したティーン特派員8人

## 高校生特派員 海外ビジネス体験

取材の成果/フォーラムで発表

三菱商事が海外で展開するプロジェクト現場を高校生が訪問してレポートする海外研修「海外プロジェクト探検隊」は今年、全国から選ばれた「ティーン特派員」8人がマレーシアとシンガポールの2か国で海外ビジネスの最前線を体験した。

今回で11回目となる探検隊は、8月20日から5日間、両国の三菱商事支店やボルネオ島ピンツル(マレーシア)にある液化天然ガス(LNG)供給基地などを見学。さらに、現地で活躍する日本人商社マンらへも直接インタビューした。

研修の目玉となったのは、同社やマレーシアの国営石油会社ペトロナスが出資するLNG供給基地見学だ。小型バスに乗り込み、広大な基地内を回ると、海のかなたのガス田につながるパイプラインや軽自動車がかたがたという送水パイプ、巨大な備蓄タンクが次々に見え、一行は驚いた様子。

現地職員から、この基地からタンカーで日本に運ばれるLNGが電気やガスとなって各家庭で使用されることや、マレーシアが日本のLNG総輸入量の17%(2013年)を占める重要な供給国であることなど、事業全般の説明を受けた。

特派員は「今後のLNGの需要の見通しはどうか」「多民族・多文化の職員たちが一緒に働くために配慮されていることはあるのか」など、熱心に質問をしていた。

マレーシアで特派員のインタビューに応じてくれた三菱商事常務執行役員、森山透さんは、外国でビジネスする心得として「相手の国を好きになる努力をすること」を挙げるとともに、「若い人はぜひ海外を経験して自分を高めて欲しい」と語りかけた。

参加した綾井祐介さん(渋谷教育学園渋谷高2年)は「企業が自社利益だけでなく、日本のエネルギー確保や現地雇用拡大に貢献していることを学ぶことができた」と話した。

創刊記念

## ティーン未来フォーラム2014 12月26日開催

読売中高生新聞の創刊記念イベント「ティーン未来フォーラム2014」(主催・読売新聞社、特別協賛・三菱商事、後援・外務省、マレーシア大使館)が12月26日、東京都千代田区のみよりり大手町ホールで開催される。

フォーラムでは、世界的な数学者で大道芸人としても活躍するピーター・フランクルさんが「真の国際人になるには」のタイトルで大道芸を交えて基調講演する。

また、今夏の海外研修「海外プロジェクト探検隊」(主催・読売新聞社、特別協賛・三菱商事、協力・全日空)に参加した高校生8人が、研修での経験を踏まえ、世界に輝く日本を作るにはどうしたらよいかを、同世代に向けた提言として発表する。8人は読売中高生新聞の「ティーン特派員」に任命されている。

「特派員」となった高校生たちはマレーシアとシンガポールでの研修から帰国後、成果を互いに報告しながら、提言を作成中だ。まとめには、慶応大学の添谷芳秀教授(国際政治学)のゼミ生たちが特別協力。先輩として定期的に指導にあたっている。

■フォーラムの応募方法■ 定員500人、中学・高校生や保護者、学校関係者向けに開催。入場は無料。はがき(〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3の12の2 KT第2ビル8階「ティーン未来フォーラム2014」事務局)かファクス(03-5577-3043)で①郵便番号、住所②氏名③年齢④職業(学校名、学年)⑤電話番号を記入の上、応募。読売中高生新聞のホームページ(<http://www.yomiuri.co.jp/teen/>)からも申し込みを受け付ける。12月10日必着。応募多数の場合は抽選。聴講券の発送をもって当選とする。問い合わせは同事務局(03-5577-3076)



フォーラムには世界的数学者のピーター・フランクルさんが登場する

# 読売中高生新聞 創刊!



スタジオで録音を行う多摩大目黒高校の放送部員ら



## 読売中高生新聞

読売中高生新聞が11月7日、全国で創刊された。「10代と社会をつなげる架け橋」を目指し、ニュースや学習、スポーツなどの紙面の充実はもちろん、様々な取り組みも進めている。

### 身近な幸せ

創刊記念で開催中の「動画・放送コンテスト」は、社会にメ

ッセージを発信したいという中高生の思いを後押しする。テーマは「幸せは、そばにある」。日常生活の中で見落としがちな幸せを、短編動画(13秒)か音声放送(20秒)で表現する。作品の募集は12月31日まで。優秀作品は、コンテストに協力する大手コンビニ「ローソン」の全国約1万2000店舗のレジ映像や店内放送で紹介される。ヨミウリ・オンライン(YO

10代世論調査 読売中高生新聞では、10代の思いを受け止めるため、投稿面と連動したスマートフォン無料アプリ「Yteen(ワイティーン)」を開発した。中高生の間でソーシャル・ネットワークング・

サービス(SNS)を巡るトラブルが相次いでいるが、投稿は編集室で事前チェックするので、子どもたちは安心して使用できる。コンテンツは、各界の著名人らが悩みにアドバイスする「解決/四天王」や、勉強に役立つ「TEENの結論」はニュース面と連動し、10代にとって身近なニュースについて、記事の中で「キミたちならどうする?」などと呼び掛け、アプリからの投稿を受け付ける。10代が何を考えているのか、本音が浮かび上がるはずだ。

先生たちも参加 先生たちが10代に薦めるのはどんな本だろう。読売中高

生新聞は、全国の中学校・高校の先生のアンケートで決める文学賞「君に贈る本(キミ本)大賞」を創設した。国語や図書室担当の先生に限らず、数学、体育など各教科の先生にもアンケート調査を実施。結果は読売中高生新聞で紹介し、来年3月に大賞を発表する。

吸収力に優れた中学・高校時代に読んだ本は、後々まで記憶にとどまり、後の人生を豊かにする。多くの先生の参加を募っている。

申し込み、問い合わせは中高生新聞編集室(03-3217-8255、[chukousei@yomiuri.com](mailto:chukousei@yomiuri.com))へ。



# 「読売教育ネットワーク」創設のごあいさつ



子どもたちの教育は長年、家庭・学校・地域社会の三者が中心となって支えてきました。近年は、勤労・職業意識を育むキャリア教育の必要性の高まりなどもあって、企業が教育分野で担う役割も大きくなりつつあります。新聞業界は特に、教育に果たす役割の大切さに早くから着目し、NIE（Newspaper In Education・教育に新聞を）の活動をはじめ、教育分野におけるさまざまな社会貢献の取り組みを充実させてきました。

日々のニュースを伝える新聞は、子どもたちが社会について学ぶための生きた教材です。記者の豊富な体験・知識も、新聞社の貴重な財産です。読売新聞社はこれらの財産をより多くの教育現場で、より効果的に活用していただきたいと考えています。美術展や音楽会、英語弁論大会、作文や小論文コンクールなど多種多様な教育プログラムも展開しています。

「教育に貢献する」という基本姿勢に立ち、読売教育ネットワークは、日本の様々な企業や公的団体、大学、そして地域とともに子どもたちの学びを支援いたします。今回第1号の会報をお届けしましたが、第2号以降の会報と新年に開設するWEBサイトが、教育現場と社会との情報をつなぐ核となります。各企業・団体、大学が展開するユニークな出前授業や教育に関わる先駆的な試み、魅力的なカリキュラム、そして子どもたちの知的好奇心を育み未来を発見できるようなイベントなどに加えて、小中高校の教育現場の声も逐次発信してまいります。こうした情報を共有して会員の皆様が結びつき、有意義な授業につながれば幸いです。

読売教育ネットワークにはすでに229の企業・団体、大学、小中高校に参加していただいております。さらに多くの皆様が、この趣旨に賛同して、参加されますことを心より願っております。

2014年11月

読売新聞グループ本社社長  
白石 興二郎

## 12月26日 ティーン未来フォーラム2014

読売新聞社は12月26日、東京都千代田区のみより大手町ホールで読売中高生新聞創刊記念イベント「ティーン未来フォーラム2014」を開催します。参加申し込みの詳細は10面参照。

## 読売教育ネットワーク 参加募集

小中高校、大学、企業・団体、個人（教職員と司書）の参加を募集します。参加無料。

読売学びサポート（<http://y-manabi.jp>）から登録してください。

読売学びサポート

検索